

令和元年度沖縄県全島緑化県民運動ポスター原画コンクール審査講評

【小学校の部 講評】

大城 直也 審査委員 (翔南小学校 教頭)

「花が舞い、緑が広がる、美ら島おきなわ」のテーマのもとたくさんの作品応募があり、わたしたちを取り巻く環境の中に緑と花とおきなわを感じさせる作品と関わることができうれしくなります。

最優秀賞に選ばれた安和小学校の比嘉颯太さんの作品は、一つの小さな緑が自らの地域である山原の森につながり、そこに生息するヤンバルクイナをはじめとする多くの動植物を守ることの大切さを感じることができました。そして、緑から広がって、周りには花と舞う蝶が私たちの心に愛でる様子が伝わってきます。

同じく、最優秀賞を受賞した。安和小学校の比嘉凜音さんの作品は、中心に大きなガジュマルの木が目を引きます。根もしっかりして大地から豊穡な養分をいただき力強く私たちに見守っているようにみえます。そして二人の児童が笑顔で落ち葉を集め、日々の日常に自然との共存が感じられます。私たちの清い心はこの花、蝶、木々の緑から美ら島おきなわへとつながっていきます。

【中学校の部 講評】

酒井 織恵 審査委員 (琉球大学教育学部附属中学校 美術教諭)

緑化をテーマにした作品が広げられた審査会場は、そよ風を感じるような空間でした。緑の色そのものに、優しさや安らぎを与える力があるのかな、と思いました。

そういう意味で、作品を描いた皆さんの心はどうだったのかな？と興味があります。ポスターという役割は、見る人にメッセージを伝えることが重要なので、描く前に「何を伝えようかな？」「どう伝えようかな？」などと、知恵を絞って考えた時間があったのではないのでしょうか。出品作品を見ても、構図、モチーフ、などで工夫を凝らした作品が多くありました。例えば、最優秀 鏡原中 3 年 高良 美咲翔さんの作品は、画面の中心に両手を描き、その背景には手前に緑の木々、中央に砂漠化した地面、後方には緑豊かな山々という 3 層を重ねる構図でした。さらに両手にシャボン玉のような透明な球体に若葉を描く事で、緑の寿命と人間との繋がりの大切さを伝えようとしたように思います。構図の工夫に加え、ひとつの画面にいくつもの緑色をつくって大変だったと思いますが、楽しい時間でもあったのかなと思います。

制作中の楽しさといえば、優秀 鏡原中 3 年 鶴 はすなさんの作品も、描いている時間そのものに楽しさがあったのでは、と想像しました。沢山の色を重ねて楽しそう。描いても描いても、また描きたくなる…。そんな作品のように思いました。

また、佳作 真志喜中 3 年 又吉 真紀子さんの作品は、作者の心に描かれた風景のような暖かさを感じました。葉っぱに絵の具をつけてぺたぺたとした作業も楽しい中にも、どういう構図にしたら効果的かをよく捉えていると思います。画用紙の白が、まるで光のように思っています。

入選 開邦中 1 年 有村 みやびさんの作品は、まるで植物図鑑の絵のようだと思います。植物の構造の複雑さ、生命力の強さを感じながら丁寧に描いています。描きながら、大切な学びを得ているのだと感じました。

緑化をテーマにした絵を描きながら、子ども達は自然から力を得ているのだと思います。楽しみながら描いた時間を大切にしたいと思います。

【高等学校の部 講評】

仲里 安広 審査委員 (那覇高校 美術教諭)

昨年に比べ、出品者が増え、全体的にレベルが高く、様々な視点で緑化推進について描かれていました。更に、独創的でバラエティーに富んだ見応えのある作品群でした。

特に最優秀賞を受賞した浜元凜さんの作品は、今回の募集テーマ「花が舞い、緑が広がる、美ら島沖縄」と、テーマにマッチした図案であることや、細部まで丁寧に描き込んだ完成度の高さ、そして、モチーフとなった木々や蝶などが生命感に溢れた瑞々しい作品であったことが審査員の目を捉えました。2年連続の最優秀賞受賞となりました。

優秀賞の石川珠羽さんの苗を植える場面を描いた作品は、大胆なタッチで力強い感じが印象的でした。また、比嘉麻里梨乃さんの擬人化された木と握手を交わす場面を描いた作品は、緑化を通して平和な世界を築く思いが伝わってきました。そして、安慶名癒月さんの独創的な木の表現は、色合いも良く、エネルギーで圧倒するものがありました。

今後とも緑化意識の高揚を願うと共に、次回も創造性豊かな力作を期待しています。